

西之表市と防衛省との協議の場報告 (1)

本年2月3日(木)に防衛大臣宛て提出した「馬毛島への自衛隊基地整備に関する住民の不安解消を求める要望書」において要望していた、「国と西之表市との協議の場」が設置され、2月28日(月)に、第1回を開催しました。10・11号では、第3回までの主な意見交換についてご報告します。

第1回協議の場

【日時】令和4年2月28日(月)13時から

【場所】西之表市役所

【議題】

- ・市長及び防衛省地方協力局次長挨拶
- ・協議の場の構成等
- ・各種団体等からの意見概要(市)
- ・これまでの情報提供の取組等(防衛省)等

【概要】

冒頭、八板市長及び青木防衛省地方協力局次長が挨拶。市は大平副市長等を、防衛省は信太参事官等を基本的な構成員とし、各課題に柔軟に対応することを確認。

また、率直な議論・意見交換を行う場とするため、開催頻度や期間は、双方で協議しながら進めていくことを確認。

協議の場において、市から「馬毛島問題に係る各種団体等との意見を聞く会での意見概要」を説明。防衛省からはこれまでの情報提供の取組等について説明し、意見交換を実施。

次回以降、市民の不安解消(治安、安心・安全等)や期待(経済の活性化、隊員の地域貢献等)につながる具体的な方策について議論していくことを確認。

第2回協議の場

【日時】令和4年3月16日(水)14時から

【場所】西之表市役所

【議題】

- ・航空機騒音について 他

【概要】(以下市=西之表市、防=防衛省)

「航空機騒音」について

市：基地が整備されるとすれば、防衛施設と無縁であった地域に基地が整備される初めてのケースであり、安全安心がより一層確保された形で整備されるべき。

安全面への配慮、本市の静穏性を考慮し、騒音問題について特に高齢者や障害のある方への配慮、不安解消のために約束が守られるよう、お互いに努力することを願っていたい。

また、不安の声には、騒音、軍事基地化・有事への不安、治安悪化への懸念、事故発生の不安があり、これらには共通して、約束が守られるのかという不安が横たわっている。

市：環境アセスメントの騒音の評価指標等について、説明を求める。

防：環境影響評価準備書で騒音の程度を表す指標は、夕方や夜間の騒音に重みをつけて評価する時間帯補正等価騒音レベル(Lden)を

(裏面へ続く)

用いることとしている。

市：米軍機と自衛隊機の離陸時の音響データが 10 km離れた地点で 80dB となっているが、西之表における騒音レベルなのか、予想される瞬間最大騒音値の及ぶ範囲を示してほしい。

防：昨年 6 月に示したデモフライトの測定結果は、実際の FCLP に近い方法で実施したものであり、各地点での瞬間的に聞こえる音の最大値として参考になるが、準備書で瞬間的に聞こえる最大騒音の予測を示せないか検討したい。

市：障がい者等への騒音の影響に対する懸念にどう応えるのか。

防：航空機騒音の影響は、現段階では環境基準を超える区域は種子島に達することはないと考えられるが、騒音防止施策として、自衛隊等の航空機の離着陸等で生じる音響を防止、軽減するため、地方公共団体等が行う小・中学校、幼稚園、病院、身体障害者福祉センター等の防音工事の費用の全部または一部を補助している。

また、再編交付金を活用して住宅等の防音工事を実施することも可能。

市：これまで航空機騒音と無縁であった市民には、夜間、特に深夜の騒音は影響があると思うが、防衛省はどのように評価するのか。

防：夕方や夜間の騒音に重みを置いて評価する Lden という評価指標を用いる。

7 時～19 時、19 時～22 時、22 時～7 時の 3 区分に分け、昼間よりも夕方、夕方よりも夜間に発生する騒音を、より大きいものとし、それぞれ 5dB、10dB 加えて評価する。

市：自衛隊の基地では、日によって飛行回数の差が大きいですが、航空機騒音の予測において、年間の平均的な 1 日を設定するとなれば、過少に評価されるのではないかと。

防：自衛隊等の飛行場では、日々の運用の変化が大きいことを考慮し、飛行回数を年間平均で設定するのではなく、飛行回数の多い日を基準とするような方法として設定しているため、過小に評価されるものではない。

市：米軍や自衛隊はコースを守ると言い切れるのか。

防：FCLP の飛行経路は、米軍と調整の上で示したもの。FCLP は、空母艦載機が空母への着艦能力を集中的に高めるため、滑走路を空母に見立てて行う訓練であるため、あえてこれ以外の経路を飛行することはないと考えている。同様に自衛隊訓練でも、緊急時等を除き種子島上空を飛行経路とすることはない。

市：深夜帯の飛行を少なくする検討はできないか。

防：空母打撃群のプレゼンスをこの地域に維持することは非常に重要であり、FCLP は集中的に行われることで深夜帯に及ぶ場合がある。非常に難しいが、米軍の訓練目的が達成できる範囲内で住民への影響が小さくなるよう米側と調整していきたい。

市：騒音で懸念されるのは、イレギュラーな事象が発生した場合の対応であり、飛行経路から外れてしまった場合や騒音が予測よりも大きくなった場合等に、どう対応するのが重要。地位協定との関係や米側への再発防止の申入れ等についても、説明してほしい。

防：運用開始後に騒音測定を行う等、音の状況の確認を行っていく。米側への再発防止の申入れ等は事例を確認したい。

市：全国的な対策の事例、例えば苦情への対応の体制や防音対策として国や自治体が独自で行っている事例、自治体が担う役割なども示してほしい。また、騒音について、振動や低周波を含め、家畜などの影響の事例やそれに対する対策などあれば、今後、教えていただきたい。

防：事例を確認したい。